

# 音楽の世界

## 目次

<b>グラビア</b>	EL オーケストラによるコンチェルトとアリアの夕べ		
<b>論壇</b>	新しい年を迎えて	深沢 亮子	6
<b>特集</b>	2015 年新春座談会 <b>音楽と会の未来を語り合う</b> 北川暁子・浦 富美・湯川亜也子・栗栖麻衣子・広瀬美紀子 橘川 琢・小西徹郎・中島洋一		8
<b>連載</b>	<b>電子楽器レポート・連載-21 ハイブリッドオーケストラによるオペラ</b> ～熊本オペラ芸術協会と韓国室内オペラ団の事例を通して～	阿方 俊	26
	歌の道・我が音楽人生 (11)	久住 祐実男	29
	音・雑記一ひなの里通信一 (74) . . . . .	狭間 壮	30
	名曲喫茶の片隅から (55) . . . . .	宮本 英世	32
	音盤奇譚 (60) . . . . .	板倉 重雄	34
	人・アート・思考塾(9)	小西 徹郎	36
	明日の歌を～楽友邂逅点 (第 11 回) -2	橘川 琢	38
<b>コンサート・レポート</b>	<b>室内楽の夕べ</b> ～深沢亮子と室内楽の仲間達～	北條 直彦	40
	EL オーケストラによるコンチェルトとアリアの夕べ	小西 徹郎	42
	第20回”詩と音楽を歌い、奏でる”トロッタの会	小西 徹郎	45
	現代作曲家グループ「蒼」《金管五重奏による5つの視点》	小西 徹郎	47
<b>音楽時評</b>	シヨパンの心臓	<b>時評</b> 政治家の勇氣	フクロウ 49
<b>追悼文</b>	村方千之さん/丸山亜季さん	助川敏弥/高橋雅光	50
<b>追悼文</b>	遠山一行さん	編集部	51
	皆様へ 『音楽の世界』 刊行体制変更のお知らせ	本誌編集長	52
	新年会の案内		53
	CMDJ 会と会員の情報		54

## ハイブリッドオーケストラによるオペラ —熊本オペラ芸術協会と韓国室内オペラ団の事例を通して—

阿方 俊

熊本オペラ芸術協会と韓国室内オペラ団が、昨年、ハイブリッドオーケストラでモーツァルトの「魔笛」を上演し、新しい演奏形態の将来的可能性を示した。前者は10月、熊本市民会館崇城大学ホール（1,579席）、後者は12月、韓国オサン市文化芸術会館（860席）。

今や日本ではめずらしくなくなったエレクトーン（ヤマハ製電子オルガンのブランド名）を用いたハイブリッドオーケストラによるオペラは、韓国、台湾、中国などでも上演されるようになってきている。

ハイブリッドという接頭語は異なった種類のものを混合するという意味で用いられ、ハイブリッドカーの場合はガソリンと電気という異種のを混合したエンジンを搭載した自動車を目指す。ここでいうハイブリッドオーケストラの場合は、アコースティック楽器（伝統楽器、生楽器）と電子楽器（エレクトーン）によるアンサンブルを目指す。

この異種混合のオーケストラが用いられる理由には次の3つが挙げられる。

- ① オペラ上演ではステージ、照明、オーケストラなどに多額の経費がかかり、オペラ団体ではハイテク技術を駆使して各分野での省力化に尽力している。オーケストラ分野での省力化策の一つとしての活用
- ② 今回の熊本オペラ芸術協会の「魔笛」は「異空間オペラ『魔笛』～肥後くまもと魔法の笛～」と異空間を謳っているが、この異空間対して異音響と言ってもよいハイブリッドオーケストラによる新しい響きの活用
- ③ 電子オルガンなど電子発信の楽器は、すべての音がスピーカーを通して出てくるため、アコースティック音と厳密な意味で同じ響きにはなり得ない。しかしアコースティック楽器音を電子音に加えることで、よりアコースティック楽器の響きに近い音が得られることによるハイブリッドオーケストラの活用

かつてエレクトーンを見たことのない北ドイツ放送交響楽団のヴァイオリニストがエレクトーン2台と弦楽器5名のアンサンブルをDVDで聞いて、“なぜ20～30人の弦楽アンサンブルのような響きがするのか”と質問したことがあるが、この反応がハイブリッドオーケストラの特色を端的に言い表している。

次の写真左は、熊本オペラ芸術協会ハイブリッドオーケストラの練習風景（指揮：



出田敬三)、同右は韓国室内オペラ団のリハーサル時のオーケストラピットでの演奏風景（指揮：金正奉）。

この2つのハイブリッドオーケストラの楽器編成は次のようになっている。

	Electone	Strings	Wind & Perc.ほか	備考
熊本オペラ芸術協会	3名	6名	17名	演奏者=26名
韓国室内オペラ団	2名	6名	1名 (Flute)	演奏者=9名

ハイブリッドオーケストラの楽器編成は数名の小さなものから管弦打楽器が加わる20名を超すものまでいろいろなタイプのもがある。この2つも演奏者の人数が3倍近くも違い、不思議に思われる方がいるかも知れない。それは各オペラ団のオペラ上演に際し、ハイブリッドオーケストラに対する基本的考えが違うことに起因する。

熊本オペラ芸術協会では、弦楽器セクションのみをハイブリッドストリングスにして、管打楽器は原曲の編成のままで、現代的な2管編成のオーケストラを追求したものであり、3名のエレクトーン奏者は次のように弦楽器を分担し音の広がり求めた。また弦楽器6名の中にコントラバスだけを2名配置して管打楽器とのバランスを取った。

第1エレクトーン（中村真貴）＝ 第1および第2ヴァイオリン

第2エレクトーン（川元慶子）＝ 第2ヴァイオリンとヴィオラ

第3エレクトーン（本田真弓）＝ チェロとコントラバス（第1バイオリン兼任）

これに対して韓国室内オペラ団の場合は、2名のエレクトーン奏者（ウォン・ヘリン、千葉祐佳）がスコアリーディング奏法で弦楽器と管打楽器を分担して演奏するものに弦楽器奏者6名を加えたものである。ここでの狙いは、電子音（エレクトーン）の弦楽パートをよりアコースティックサウンドに近づけるといふ点にあり、弦楽器に第1ヴァイオリンが2名加わった6名で、前者と対照的になっている。

もうひとつ挙げられることに、前者が弦楽器音をマイクで軽く拾っていたのに対して後者はマイクを用意したもののゲネリハで使用しない結論に達した。これは、熊本市民会館の1,579席のキャパシティに対しオサン文化芸術会館が860席であり、ハイブリッドオーケストラでマイクをどのように使っていたらよいか、客席数なども考慮して今後の課題になると思われた。



（写真左は熊本オペラ芸術協会、右は韓国室内オペラ団公演のカーテンコール）

かつて日伊音楽文化交流—音楽の虹フェスティバル—で、ハイブリッドオーケストラを用いてプッチーニの「修道女アンジェリカ」が上演された時、ヴェルディ音楽のマルチェッロ・アッパード元院長が“オケの演奏がはじまった時に、少しいつもと違うかなと感じたが、幕が上がり、舞台上でコーラスが歌いだすと、違和感はまったく感じられなくなった。これならオペラに世界でもっともうるさいイタリア人も容認するだろう”と感想を述べた。オーケストラとハイブリッドオーケストラの違いだけに耳を傾けるのであれば別であるが、今回、この2つのオペラを観て改めてアッパード院長のことばが思い出された。

またオサンの「魔笛」を観たヤマハ・ミュージック・コリアの山田俊一社長は、“ハイブリッドオーケストラによるオペラの話しを耳にはしていたが、このようなエレクトーンが発信の場があることを改めて認識した。今後、新しい動きを考えて行きたい”とこの楽器のハイブリッド的使用法の可能性に意欲を示した。

と同時に、会場のキャパシティに最適な楽器編成やマイクの使用法に関する課題などが多々残されていることも事実である。しかし、ハイブリッドオーケストラがオペラ公演で大きな一歩を着実に踏み出しているのは間違いない。

（あがた・すぐる 本研究会員）